

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

ミチノクフクジュソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根市

草地や明るい林内に生える多年草で、フクジュソウによく似ていますが、より多く枝を出して花を咲かせ、萼の長さが花弁の1/2～1/3で短く、数も5～6枚と少なく、開花がやや遅くてフクジュソウが結実する頃が最盛期です。

本州の北・中部と九州に分布し、県内では太平洋側南部に産し、フクジュソウと混生することもあります。草地・落葉広葉樹林の減少および採取などで次第に減少しています。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

フクジュソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈15～25cmの多年草で、早春に黄金色の花を咲かせます。

北海道から九州まで分布していますが、西日本には多くありません。県内では各地にたくさん生育していましたが、近年急激に減少しています。

減少の原因は生育地の環境変化と大量採取によるものと思われます。生育地の環境を保全し採取しない事が望まれます。

元日草とも言われま

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

ヒメキンポウゲ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根市

塩湿地に生える多年草。小形で高さ5～12 cm。地上をほう細長い枝を縦横に走らせて増えます。

本州固有種で太平洋側は青森県から千葉県まで、日本海側は秋田県に分布します。県内では太平洋側のしばしば海水に浸る平坦な砂質地や岩間に見られます。

海岸開発・護岸工事・砂採掘および水質悪化などで減少しています。尾駈・高瀬川河口部の群生地はなんとか保存したいものです。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

オキナグサ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈10cmほどの多年草で、全体に長い白毛を密生させ、地下に太い直根を持っています。

花は暗紫色で鐘形の一つを下向きに咲かせ、花後、翁の白髪を思わせる果実ができます。

本州から九州まで分布しています。県内では、各地の牧野などの草原に普通に見られました。しかし、近年は牧野の消滅とともに姿を認める事が困難になりました。

生育場所となる原野を確保し、個体を保護することが望まれます。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

シコタンキンポウゲ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根市

海岸の草地に生える多年草。ウマノアシガタ（キンポウゲ）によく似ており、一緒に生えていることもあります。地下に走出枝を出す点で見分けられます。

北海道と本州では県内の東通村尻屋崎だけに産し南限になっています。

現在生育地は寒立馬などの放牧地になっていてキンポウゲを食草としないので良く育っていますが、自然の牧野の中止などの環境変化があると生育にも影響が出てきます。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

ハンショウヅル

青森県：B

環境庁：該当なし



細井幸兵衛撮影

細井

花がないと本県には分布していないトリガタハンショウヅルやミヤマハンショウヅルに似ています。東北地方では岩手・秋田・宮城・山形の4県からは記録がなく、それより南に分布しています。ところが本県では津軽・下北両半島に分布し、非常に特異です。林縁もしくは明るい林内にまれに産します。

このように広い空白地を経て再び分布域が現れる例は非常に珍しいことです。一種の隔離分布と考えられるでしょう。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

イワカラマツ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根市

山地の日当たりの岩場に生える多年草で、全体に腺毛が多く、花は6～7月に咲きます。よく似たアキカラマツやコカラマツ（オオカラマツ）はほとんど腺毛がなく、花は遅くて8月に咲きます。しかし、東通村石灰岩地産などの7月に咲くタイプのももあり、変化が多いので詳しい調査を要します。

本州北・中部に分布し、県内の岩場に点在します。各産地とも小面積ですがやや優占的に生育しています。道路新設・拡張および岩石の採掘などで減少しつつあります。

双子葉植物離弁花類キンポウゲ科

ノカラマツ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



細井幸兵衛撮影

細井

アキカラマツと似ているので、注意しないと見過ごしてしまいます。大きさには差がありませんが小葉が少し狭く、花序もアキカラマツのように広がらなくて、茎にはいちじるしい稜があります。県内では太平洋側に見つかっていて、湿り気がありよく日の当たる草地に生えています。今まで佐井村、下田町、小川原湖畔およびそこから流れる高瀬川沿いに知られています。本県が北限分布域でもあります。

双子葉植物離弁花類メギ科

トガクシソウ



兼平瑞夫撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草丈30cmほどの多年草で、早春に淡紫色の花を咲かせます。萼片が6個で花弁状になり、花弁は小さくて目立ちません。

本州の中部と北部の山地に分布しています。県内では赤石川上流地帯だけに知られています。

湿り気のある落葉樹林下などに生育していますが、減少傾向にあります。生育地の保存と採取しない事が必要です。

別名はトガクシショウマ（戸隠升麻）です

木村

双子葉植物離弁花類スイレン科

ネムロコウホネ



工藤盛三撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

葉は広い卵形で、長さ6～14cm、幅6～9cmです。葉の裏にはビロード状の細かい毛があり、花は黄色で直径3cm位で、7～8月にかけて咲きます。県内では、南八甲田山にただ1か所あり、ヒツジグサと混生しています。国内では、北海道（東部）・本州（東北地方）の山地の池沼中にまれに分布し、国外では北極を中心に円を描いたような分布をしています。

原子

双子葉植物離弁花類ウマノスズクサ科

ミチノクサイシン

青森県：C

環境庁：絶滅危惧II類



根市益三撮影

根市

林下に生える常緑の多年草。茎は地をはい、葉は腎円形じんえんけいで径3cm内外です。花は4月中旬～5月に咲きます。同じ仲間に夏緑性のウスバサイシン・オクエゾサイシンがあります。

本州の東北・中部地方に分布し、県内では奥羽山系のブナ林下にも産しますが、太平洋側の小川原湖・六ヶ所～東通村・むつ市周辺のハンノキ林下に多く見られます。森林伐採・湿地開発で次第に減少しています。

双子葉植物離弁花類ボタン科

ヤマシャクヤク

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



木村啓撮影

木村

草丈40cmほどの多年草で、互生した複葉をつけます。5月下旬、茎の先にピンポン玉ほどの白色5弁花を一個咲かせます。花後に袋果をつけ、裂開すると赤色の内面が現れます。

本州から九州に分布します。県内では各地に見られ、山地の落葉樹林下やスギの林床に生育していますが減少しています。

同属にベニバナヤマシャクヤクがあり、こちらも絶滅が危惧されています。

双子葉植物離弁花類ボタン科

ベニバナヤマシャクヤク

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

原子

林下に生える多年草。ヤマシャクヤクに似ていますが、花弁は淡紅色で6月に咲き、花柱は5個で、柱頭は長くて強く外側に巻きます。葉の裏に毛のないものを、ケナシベニバナヤマシャクヤクといいます。

北海道・本州・四国・九州に分布し、県内で全域に産しますが、本来の生育地である落葉広葉樹林のスギ植林地化と採取のために減少し、今ではまれな植物となりつつあります。

双子葉植物離弁花類オトギリソウ科

エゾオトギリ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根市

日の当たる岩場に生える多年草。茎は叢生し、時に匍匐することもあり高さ10～30cmで、2条の隆起線がある点で他のオトギリソウ類と見分けられます。

北海道と本州北部に分布し、県内ではところどころの岩場に見られますが、各地共あまり数は多くありません。樹木などの浸入による植生の変化で次第に減少しています。石灰岩採掘や建設用採石場のため失われた所もあります。

双子葉植物離弁花類アブラナ科

エゾイヌナズナ

青森県：D

環境庁：該当なし



木村啓撮影

草丈10cmほどで海岸岩上に生育している北方系の多年草です。

北海道と本州の青森県に分布しています。県内では津軽半島と下北半島の限られた地点で見られますが、個体数は多くありません。

海岸岩上という厳しい特殊環境に生育していますので、環境変化が起こると消滅してしまう心配があります。

生育場所の保全と採取しない事が望まれます。

青森県が南限の植物です。

木村

双子葉植物離弁花類ベンケイソウ科

ツガルミセバヤ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



木村啓撮影

白神山地から初めて報告された多年草で、本県と秋田県のごく限られた地域にのみ分布しています。主として岩場に生育しますが、崩壊的な斜面にも生育します。白神山地では溪流沿いの雪崩斜面に生育することもあります。県内では白神山地のほかに、青森市、三厩村などでも確認されています。エゾイワハタザオなどと一緒に生育することが多いようで、10月頃に乳白色の散房花序をつけます。

盗掘が激しくなっています。

齋藤

双子葉植物離弁花類ベンケイソウ科

レブニワレンゲ

青森県：B

環境庁：該当なし



細井幸兵衛撮影

細井

本州では八戸市種差海岸のみに分布しています。ここのものが1902年（明治35年）に植物学雑誌に和名なしで紹介されました。

その後、1954年（昭和29年）礼文島桃岩で見つかったものが新種レブニワレンゲとして発表されましたが、これは本県のものとは区別できません。北海道では、積丹半島・島牧村・襟裳岬・日高にも広く分布しているにもかかわらず、いまだに正確な学名がついていません。

双子葉植物離弁花類ユキノシタ科

タコノアシ



根市益三撮影

根市

青森県：C

環境庁：絶滅危惧II類

湿地に生える多年草。茎は高さ30～80cmで淡紅色を帯びます。7～8月頃放射状に枝を出して花を咲かせ、その様子がタコの足を思わせます。

北海道を除く全国に分布し、県内にも点在します。河原や休耕田にいち早く出現したかと思うと数年で姿を消してしまう先駆的植物です。最近休耕田が多くなり出現する機会が巡ってきていますが、帰化植物との競合で次第に減少しています。

双子葉植物離弁花類ユキノシタ科

ヤシャビシャク

青森県：C

環境庁：絶滅危惧II類



根市益三撮影

ブナやミズナラの老木の樹上に根を下ろしている樹高40cmほどの落葉低木です。雌雄異株で、葉は腎臓形で長い柄があります。雌株には、腺毛を密生させた球形の果実ができます。

本州・四国・九州に分布しています。県内では各地に見られますが数はたいへん少ないです。

自然度の高い落葉樹林内を生育の場としているので、樹林を保全し、採取しない事が望まれます。

ラショウと呼ばれ盆栽にもされます。

木 村

双子葉植物離弁花類ユキノシタ科

シコタンソウ

青森県：B

環境庁：該当なし



兼平瑞夫撮影

本州中部以北に分布する全国的にも珍しい小型の草本植物で、本県でも2か所から報告されるだけです。日当たりの良い岩場に生育し、岩場の微凹凸に根を張っていることが多く、パッチ状に群生します。本県ではブナ帯の岩場で確認されますが、全国的には高山植物として扱われる種です。6月頃に花茎の先に数個の花をつけます。植物体は花茎を伸ばしても10cm内外です。目立つ花なので盗掘が激しくなっています。

齋 藤